



# あたらしい本

第245号 2024. 5. 15 発行（こども版）



## たくさんよんでくださいね！

「いえのなかのものをそとへつれだしたおじさん」

アーノルド・ローベル/さく こみやゆう/やく 好学社（えほん 幼児向き）

ベルウッドおじさんの大きな家にはお気に入りの物がいっぱい。ずっと家に閉じこめられているのは良くないと、外へ連れ出しますが、みんなはおじさんを置いてどこかへ行ってしまい…。

「エリック・カールのグリムどうわ 5つのおはなし」

エリック・カール/再話・絵 グリム/原作 偕成社（えほん 3～5歳）

「はらぺこあおむし」の作者エリック・カールが、グリム童話を再話。自分の持ち物を次々に人の持ち物ととりかえていく「しあわせハンス」のほか、「りょうしとおかみさん」「3本の金いろのひげ」など全5話を収録する。

「しごとのどうぐ」 三浦太郎/作 偕成社（えほん 3～5歳）

かなづち、まちばり、スパナ、包丁。道具がたくさん描かれたページをめくると？大工さん、仕立屋さん、料理人、電気技師さん、時計屋さんなど、さまざまな職業の人と仕事で使う道具を紹介する絵本。

「ぼくのおかあさん」2ねん1くみ すぎしたげんき」

大島妙子/絵 川之上英子/文 アリス館（えほん 3～5歳 小初向き）

今日の授業参観で、げんきくんはおかあさんについての作文を読むことに。でも、おかあさんはまだ学校に来ていません。げんきくんはおかあさんの特技やこわいところをゆっくりと読みますが、おかあさんは間に合うでしょうか？

「<sup>たんていじけん</sup>ペット探偵事件ノート <sup>き</sup>消えたまいごねこをさがせ」 <sup>あかはね</sup>赤羽じゅんこ / <sup>さく</sup>作

<sup>なかだ</sup>中田いくみ / <sup>え</sup>絵 <sup>こうだんしゃ</sup>講談社 (よみもの 小中向き)

<sup>おさな</sup>幼なじみの<sup>やよい</sup>弥生に、「いなくなったねこのソックスを探してほしい」と頼まれた<sup>たの</sup>宙<sup>そら</sup>。

ペット探偵をしている<sup>たんてい</sup>源おじさんは「ペット探偵七つ道具を使え」というけれど…。

<sup>いのち</sup>小さな<sup>まも</sup>命を守るため、<sup>そうさくかいし</sup>搜索開始！

「<sup>つくえ</sup>机の下の<sup>した</sup>ウサキチ」 <sup>おかだじゅん</sup>岡田淳 / <sup>さく</sup>作 <sup>かいせいしゃ</sup>偕成社 (よみもの 小中向き)

<sup>しょうがくせい</sup>小学生の<sup>いっぺい</sup>一平は、おじいちゃんの<sup>つくえ</sup>机の<sup>した</sup>下から、<sup>ふしぎ</sup>不思議な<sup>のほら</sup>野原に<sup>まよ</sup>迷いこむ。そこには<sup>おお</sup>大

きなウサギがいて、まるで<sup>とも</sup>友だちのように、<sup>はな</sup>話しはじめた。ふたりはウサギがなくした、

<sup>は</sup>跳ねる<sup>ちから</sup>力を取り戻すため<sup>たび</sup>旅に出る…。<sup>ぼうけん</sup>冒険ファンタジー。

「<sup>さいかい</sup>再会の日に」 <sup>なかやませいこ</sup>中山聖子 / <sup>さく</sup>作 <sup>いわさきしょてん</sup>岩崎書店 (よみもの 小上向き)

<sup>ねんはんまえ</sup>3年半前、突然引き裂かれるように別れた<sup>わか</sup>姉妹、<sup>しまい</sup>陽架と<sup>はるか</sup>未怜。あることがきっかけで<sup>い</sup>意を

<sup>けつ</sup>決した<sup>はるか</sup>陽架は、<sup>いもうと</sup>妹の<sup>かよ</sup>通う<sup>じゆく</sup>塾の前で<sup>まえ</sup>待ち伏せして<sup>まぶ</sup>声をかけるが、<sup>こえ</sup>未怜の<sup>みれい</sup>反応は<sup>はんのう</sup>意外な<sup>いがい</sup>もの

のだった…。

「<sup>み</sup>見えるもの<sup>み</sup>見えないもの <sup>しょう</sup>翔の<sup>しき</sup>四季 <sup>はる</sup>春」 <sup>さいとうひろし</sup>斉藤洋 / <sup>さく</sup>作

<sup>いとうあつき</sup>いとうあつき / <sup>え</sup>絵 <sup>こうだんしゃ</sup>講談社 (よみもの 小上向き)

<sup>がっこう</sup>学校をしばらく<sup>やす</sup>休んだ<sup>あん</sup>杏の<sup>なや</sup>悩み。知里が<sup>ちさと</sup>告白してきた、<sup>こくはく</sup>自分の<sup>じぶん</sup>かわった<sup>ちから</sup>「力」…。

<sup>にちじょう</sup>日常の<sup>ちい</sup>小さな<sup>できごと</sup>出来事が、<sup>しょう</sup>翔を「見えるもの」と「見えないもの」に<sup>み</sup>向き合わせ…。もの

<sup>おも</sup>思う<sup>しょうねん</sup>少年・<sup>しょう</sup>翔をとりまく1年間を描いた「翔の四季」シリーズ。

さかどしりつちゅうおうとしょかん  
坂戸市立中央図書館 TEL281-6369

※図書館流通センター「新刊全点案内」より引用